

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Contains details for 0173501297, ファインケアネクスト株式会社, グループホーム和みずもと, 室蘭市水元町53-12, 令和5年11月15日, 令和6年1月29日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業コンセプト「心からの笑顔が生まれるみんなの家」
ご入居者様、ご家族様、職員が笑顔で過ごせる場づくりに努めている。
ISO9001の認証を取得し内部管理体制の構築とサービスの質の向上に努めている。
風通しの良い社風づくりを大切にしており、職員一人一人が意見の言いやすい職場づくりに努めている。
人財育成に力を入れており、人事考課制度を導入し職員一人一人が向上心をもって働ける環境づくりを行っている。
毎月勉強会を行い、介護の知識、技術の向上に取り組んでいる。
理念の浸透に力を入れている。
ご入居者様の気持ちに寄り添い、心地よい時間を過ごせるよう努めている。
丁寧な関わり、ケアを行うよう心掛けている。
ご家族様への報告・連絡・相談を適宜行いご家族様との信頼関係を大切にしている。
不適切ケアへの取り組みを徹底している。
ラインワークスを活用し、報告・連絡・相談を迅速かつ確実に行うように努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL: https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0173501297-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Contains details for 特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット, 札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401, 令和5年12月5日.

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、最寄りのバス停から至近距離にあり、自然が身近に感じられる住宅街に位置している。
近くの聾学校からはボランティアで、大学からは清掃のアルバイト等で来訪があり、次世代交流ができています。
外出は自粛が続いているが、職員が持ち込んだ桜を分け、ユーチューブで桜の映像を見ながら花見弁当を味わい、また、ユニット合同の夏祭りではユーチューブで花火大会を観賞するなど風物詩を楽しんでいます。
外出に代えて、利用者は広めの廊下を使い歩行運動に励み、外出行事に備えています。
代表者始め役職者は、職員の間人権力を信じ、職員自身が自ら考え行動に移すことを見守り、結果として運営の向上や業務改善に繋がっている。
介護理念に沿ってさらなる向上を目指している「グループホーム和みずもと」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果(該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果(該当するものに○印). Contains 10 rows of evaluation items (No. 56-62) regarding user satisfaction, staff interaction, and service quality.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護事業を通して地域貢献できるよう会議にて理念を理解、事業所内数か所に掲示、朝礼時、会議時に唱和日々実践している。	社会貢献を謳った経営理念に加え、利用者が安心して暮らせる環境作りなど3項目からなる介護理念を策定している。日々の業務はもとより、会議や内部研修等で理念の意義と実践の確認を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、草刈り、公園設備等に参加している。近隣の学校の生徒さんとボランティアで交流あり。カットは地元美容室に依頼。行事のケーキは地元のケーキ屋さんに依頼している。	町内会行事である公園や周辺の清掃活動に参加をし、食材や物品は極力地元で購入している。近くの学校にリングブルを届けたり、大学生のアルバイトを受け入れ、地域高齢者の見守りや住民からの介護相談に乗っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症対応グループホームへの理解を深めていただくために、町内会行事に参加し説明会を行うなど交流を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	10月、11月に開催し、ご意見をいただきサービス向上に活かしている。	会議は対面で行われ、利用者や職員状況、行事内容や事故、ヒヤリハット及び身体拘束の有無を報告し、発生した場合は、原因究明と改善策を載せた議事録を作成している。配布した家族はもとより、推進委員から現状に対して理解が得られるよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホーム運営及び入居者様のケアサービス等、介護保険課及び生活支援課との協力関係を築いている又室蘭グループホーム連絡会参加、情報の共有を行っている。	代表者は、室蘭グループホーム連絡会の役職を担う中で、行政機関と意見や情報交換を行い室蘭の事業所全体の質向上に繋いでいる。メールや電話等で各担当部署と連携体制を構築し、利用者が安心して暮らせる環境を整えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や不適切なケアをしない状況をめざし、心身の機能を正確にアセスメント、身体拘束をしない状況を作り出す方法を追求、毎月のリーダー会議、ユニット会議にて身体拘束となりうる問題行動の原因を追究し取り除く支援に取り組んでいる。	職員は、身体拘束をしないケアを当たり前として認識している。指針に基づき適正化委員会や各種会議で拘束が起きていないことを確認し、研修会では平常心を保つ方策等を学んでいる。毎月のアンケートは、職員がケアを振り返る機会となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修、不適切なケアを考える事例検討ねちエック表を松井喜実施、虐待・尊厳について繰り返しの勉強会開催、看護職員の心身の健康状態を保つためにメンタルケア研修取り入れ実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修計画に組み込み、毎年職員に研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約前に契約内容を説明、入居時再度契約書に添って説明、疑問点などの確認後、理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、電話、メールのやりとりの中でご家族の気持ちに寄り添い、出来るだけ意向の聞き取りを行うよう取り組んでいる。頂いたご意見を運営に反映するよう努めている。	利用者の意見や要望の把握は関わりで、家族からは事業所便りや電話、メール、ライン、、面会時に利用者の様子を伝える中で聞き取っている。家族からの歩行器使用申し入れを受けとめ、また、支援に対してやブログなどの情報開示に対して感謝の言葉が得られている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談、ユニット会議、リーダー会議内で職員が意見を言いやすい場づくりを行っている。意見、提案があれば反映できるものはスピーディーに対応を行っている。	代表者は、常に職員の意見や提案の把握に努め、意欲向上や運営の質確保に繋げている。取り上げた意見や提案を実践に移し、その後評価を行い、表出した課題は職員間で改善策を話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度があり、職員一人一人がモチベーションを持って働ける職場環境づくりに努めている。休憩スペースゆっくりとくつろげるよう整備を行った。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度研修計画を立て、毎月、社内勉強会を行い職員の知識、スキルアップに努めている。個々の力量に応じて外部研修に派遣しスキルアップできるよう支援している。今年度、介護福祉士2名取得。認知症実践者研修2名修了。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みを行っている	室蘭グループホーム連絡会、北海道グループホーム協議会に所属し、他施設と情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	各関係機関やご家族から頂く情報をもとにアセスメントし、環境が変わることによる不安、混乱が無いよう、本人の思いを組みとり、安心した生活ができるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回ケアプラン作成時、本人、ご家族とゆっくり時間を取り要望等をお聞きしている。気兼ねなく話ができる環境づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分行い、必要とする支援を会議等にて検討、情報共有をおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事を把握し、家事活動を一緒に行い、支え合いながら生活出来る関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話、メール、面会時、面会以外の来訪の際に、生活状況を共有、相談、協力し合い本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会再開し、面会時間を伸ばして馴染みの関係性の継続に努めている。 YouTubeで思い出の場所を懐かしんでいたっている。	利用者にとって馴染みの人や大切な人との面会を再開している。利用者には、ユーチューブで編集した自宅の中や庭を見てもらったり、夏には花火大会の映像等で懐かしさを感じられる取り組みを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでYouTubeを観たり、楽しんで歌を歌うなど、皆さんが参加できるようなレクリエーションに取り組んでいる。ユニット対抗の運動会などを行い、孤立しないような支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族からの電話、来訪などによる相談ごとの対応、いつでもホームに立ち寄っていただける様支援している。退去後もご家族が家庭菜園で作られた野菜、漬物契約終了前と変わらず定期的に来訪され交流が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報、日々の様子、変化などを見逃さずね会議等にてモニタリング、ケアプランに反映させ支援している。	利用者の思いや意向は、何気ない日常の中で聞いたり感じ取っている。積み重ねてきた個別の記録や家族からの情報を踏まえ、利用者が満足できるよう職員間で話し合い、その思いを叶えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、自宅訪問し馴染みの場所での聞きとり、施設体験実施。入居後出来る事、できない事の見極めをして会議等で共有、統一したケアにつながるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日どう過ごされたかが把握できる記録を基に心身状態、言動、他の方との関りなど把握し共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一度モニタリングを行い本人、家族の意向要望を生かし現状変化などに配慮し適切なサービス提供が出来る介護計画を作成している。	利用者の生活に対する意向や家族の思いを中心に医療従事者の意見も踏まえ、職員はなすべき支援を話し合っ、更新時や状態変化時に介護計画を作成している。介護記録に支援目標の実践をチェックしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の支援経過(随時ラインワークスにて確認可能)に心身生活状況の変化を記録することで職員全員への周知訪問診療、病院受診時、医師とも相談してかいかいぐけいかくの見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	キーパーソンの死亡、病気など、その時に必要である対応をご家族と相談、日々ケアにとられない支援を実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々が、ホームの草刈り、草取り、庭に、かぼちゃやお花を植えてくださっている。かぼちゃは収穫し入居者様に提供させていただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の訪問診療や、入居者様の特変時には個人カンファレンス実施、入居前のかかりつけ医とは本人、家族と相談し希望どうりの受診、病院と密に情報共有して適切な医療を受け入れられるよう支援している。	利用者の大半は、月2回の内科医と必要時に歯科医の訪問診療を受けている。協力医療機関の受診は職員が対応し、それ以外は家族対応としている。訪問看護師による健康管理もあり、急性期への対応ができています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活状況を共有し報告、訪問看護による週1回の健康状態の確認、24時間対応制のため電話相談、緊急時訪問、協力病院との連絡等常に行えるよう協力を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院、入院先病院、相談員、看護師、家族との連絡を密にし情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約書に置いて重度化の指針及び看取りの説明を行う職員はターミナルケア、みどりの研修に参加。本人、家族の希望を尊重し協力病院、訪問看護、家族、職員一緒に支援し取り組んでいる。(前年度1件・今年度2件)	重篤時の対応指針の中に、重度化及び看取り介護に関する理念と医療機関との連携、チームの編成、家族との連携、ターミナルに関する本人及び家族の意思確認等が載っている。毎回、利用者や家族から感謝の言葉が聞かれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアル作成、緊急対応を定期的確認、又緊急応急手当、初期対応の研修を行って実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練、年2回実施(夜間・昼間設定)防火講座、年1回実施 備蓄品準備有り BCP11月完成予定。自然災害想定の実践的訓練予定あり。	防災管理士による火災、災害時の避難誘導のあり方を内部研修で学び、さらにBCP(事業継続計画)の作成時も指導を受けている。1回目の日中火災発生を想定した訓練を設備業者の指導の下、新人職員や利用者も参加して実施している。	BCPIに沿って、今後計画している夜間想定と自然災害想定での避難訓練の実行と併せて、第1次避難以降の避難場所の確認と家族に周知、さらなる地域との連携強化に期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した声掛けに配慮している。毎月不適切ケアを防ぐため事例検討シートチェック表により繰り返しの研修を行っている	介護理念は利用者を主体としており、職員はその意義を十分に理解して実践で示しているが、さらに毎月自身のケアを振り返っている。不適切ケアが生じたときには、職員間で注意し合える関係性を築いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が選択、決定出来やすいような環境づくり、声掛けにより寄り添い自己決定がしやすいよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の日常スタイルを会議等にて確認、情報共有し希望に沿った支援を心掛けている入居者様の希望されたことをもとに行事を企画したり、お誕生日にはご本人の希望を伺いメニューを作る等、希望にそって支援を行うよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容利用、好みの髪型、髪飾り、好みの服を着て頂いたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好き嫌いの把握、咀嚼力を考慮してきざみ食、ミキサーなど食別調理法にて提供している。入居者と共に調理、盛り付け、後片付けなどを行っている。	食の重要性を認識しており、食材は魚など各専門店から購入し、一汁三菜を基本に利用者の好物である南瓜のいとこ煮やカレーライスなどを献立にしている。誕生日は生ちらし寿司等の祝い膳にケーキでお祝い、ときには出前を取るなど、食の楽しみに繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師、看護師と連携し、毎日の食事・水分摂取量・排便票作成、現状に応じた調理方法にて支援している(刻み・ミキサー食・ペースト食等)食欲低下が見られたら、栄養補助食品を処方し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内清潔を保つ様個々にあった支援を行っている。必要な方には訪問歯科を利用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しに、その方に合った声掛け等の支援を行っている。2名介助や、ベッド上での支援なども行いご本人の力を活かした支援を心掛けている。	自尊心に配慮して声掛けや誘導、状況により複数介助を行い、トイレで排泄できるよう支援している。布下着の着用や衛生用品の使用は利用者に適した物であるよう、常に職員間で検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く取り入れる献立にしている。腹部マッサージ、体操、歩行運動等を医師、看護師に相談し実施。個々に応じた支援を行っている。出来るだけストレスなく水分を摂取出来るよう好むものを提供するなど工夫をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の希望する時間の入浴は難しい。入浴中は職員とゆっくり会話を楽しんでいただけるよう支援を行っている。入浴が出来ない方にはシャワー浴、ベッド上で清拭を行うなど個々に合わせた清潔の保持に努めている。	入浴は週2回を基本に、午後から同性介助や湯加減などの要望に応じて支援している。状況によりシャワー浴や湯船で温まって欲しいと2人介助も行っている中で、入浴時間はコミュニケーションの場となり歌や本音が聞かれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムの把握、日々の活動の充実、精神的ストレス身体の痛み、痒み、冷え等を取り除き安眠できるよう支援している。眠れないときはスタッフと共にリビングにてテレビを観たり飲み物を提供する等リラックスして過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は職員がすぐ確認出来るようにしており、変更があった際も情報の共有を行っている。体調の変化があれば、その都度、訪問診療、外来受診、訪問看護等で相談、報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の得意分野を活かして個々の出来る事の把握を行い継続できるよう支援している(炊事・針仕事・ダンス・カラオケなど)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ感染予防のため外出は行えていないが、通院介助などで外出の際に、桜、紅葉、お花などを楽しんでいただけるよう支援している。玄関やホームの周りに花を植え楽しんでいただけるよう取り組んでいる。	外出は自粛が続いているが、事業所周辺や隣近所の庭の花々を眺め、外来受診時には景色を楽しんでいる。職員が持ってきた桜の枝やチューブでお花見をしながらお弁当を食べるなど、外出気分を味わえる企画を立案している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談のもと本人の強い希望があった場合お金を所持していただいているもお金を使える支援はしていない(現在お金持参の方は1名のみ)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、知人との連絡取次、年賀状、手紙、ハガキ送付の支援を行っている。ご家族からプレゼントやお手紙があったときはご本人からお礼のお電話をしていただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険回避のため家具等の配置を工夫している。テレビの音量調整、日差しや照明の配慮、パネルヒーター、空気清浄機、エアコンを使用し環境の整備を行っている。廊下には季節を感じられる写真を飾るなど工夫している。	クリスマスグッズが飾られているリビングには、利用者がいつでも横になれるようベッドを用意している。そのリビングで利用者はテレビを見たり、茶碗拭き、洗濯物畳みなどで力を発揮している。100歳の誕生日をお祝いするなど、利用者は職員の支援の下、穏やかな日常を送っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士が過ごしやすいソファを配置。リビングないに置いてあるベッドでの傾眠、談話室、廊下のベンチなど一人でも過ごせる工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前事前に家族と相談、馴染みの物、大切にしている物など持参していただき今迄の生活により近い状態で生活していただいている(大正琴、仏壇等持参の方有り)	7. 5畳ある居室には、ベッドとクローゼットを設置している。生活に必要な品々や家族写真、職員からの色紙等が身近にあることで、利用者は安心感ある暮らしを続けられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お手伝いがしやすい広いキッチン、歩行運動が出来る長く広い廊下。居室等の目印、個々の出来る事、できない事を共有し介護計画書に取り込み、身体機能に合わせた支援を行っている。		